

(総合設備業の配電工事部門に勤務)



Q1. 現在働いている業種・業界に興味を持った理由は？

小学生の頃に配電工事をしている現場を見た時、電柱に登っている作業員の姿に憧れを感じたのがきっかけです。また、この仕事では、高所作業車などを使って高い所で作業をするなど、非日常の経験ができるということに興味を持ちました。高校では電気科に入学し、電気に関する基礎知識を学び、就職の際にはもともと希望していた今の業種にすんなりと決めることができました。

Q2. 現在従事している仕事内容は？

配電工事部門では、電柱から電柱へ電気を送るための電線を敷設し、各家庭や事業所の構内へ電気を届けるための工事を行っています。電柱の上には変圧器と呼ばれる送られてきた高電圧の電気を通常使用する低電圧の電気に変換する機器が設置しており、敷設した電線を変圧器に接続する作業も行っています。新規に電線を敷設する場合もありますし、老朽化した電線を事故予防のために交換する場合や、落雷などの自然災害で故障した電線等を修理する場合があります。

基本的には外に出て現場での業務となり、営業所に帰ってからは翌日の工事に使用する材料の準備や工具の点検を行います。また、使用する機器のマニュアルを読んだり、手になじむ工具を選んだりと作業が円滑に進むように日々研究もしています。私はまだ入社3年目ですが、もう少し経験を積んでいくと発注管理や伝票処理などの事務仕事もすることになります。

Q3. 現在の仕事の魅力、やりがいは？

自分が工事に携わって敷設した電線や電柱のそばを通った時に、人々の生活を支えるインフラ整備に貢献している実感でき、この仕事が人の役に立つ仕事であると誇らしく思っています。

仕事の中では、作業に慣れ手順を覚えていくことで作業を早く行うことができ、上司や先輩から褒められたときにモチベーションが上がります。

Q4. 職場の雰囲気、働く環境は？

現場では、6人から9人くらいのチームで作業を行うため、年齢や経験に関係なくコミュニケーションを取っています。上司から声をかけていただくことが多いので雰囲気が良く、仕事が進めやすいです。私の勤務する営業所では、コミュニケーションに係る研修を全員で受講するなど、社員同士の対話を大切にしている風土があります。

勤務環境に関しては、屋外での工事なので夏は暑く、冬は寒いです。時には過酷な状況下での作業もあります。夏場は熱中症に注意を払っていて、経口補水液や塩分タブレットを常時補給できたり、状況を見ながら適宜休憩を取ったりできるような配慮されています。

工事計画に従って作業しているので、基本的に土日は休みです。自然災害などが発生すると、障害対応のために急な出勤もありますが、勤務調整によって代わりの休みを取れるようになっています。

Q5. 仕事で求められる力や、身に付けておいて欲しいことは？

屋外での作業が多くなるので、体力が必要です。学生のうちから運動などして、体を鍛えておいた方がいいと思います。また、「何時までに工事を終わらせる」といった期限が決められている場合もあり、なるべく短時間で作業を行う必要があるため、要領よく仕事を行うことや、安全確保のためにも、現場では大きな声で元気よくコミュニケーションを取ることが重要です。

私は高校の電気科で電気の基礎知識を学んできたので、仕事をする上でプラスになりました。もともと知識があるに越したことはありませんが、入社後、実際の作業に関する研修を受けることで、身に付けることができます。

Q6. これから進路を考える高校生に向けて、業界のPRや就職に関するアドバイスを！

配電工事の仕事は、世の中のライフラインを支えているという誇りが持てる仕事です。電気は不可欠で止めることができないので、人々の生活が自分の手にかかっているという使命と責任を伴う点にとってもやりがいを感じます。

これから進路を考える高校生の皆さんは、企業見学やインターンシップを積極的に参加して、職場の雰囲気や人間関係をよく見て考えて欲しいです。給与面だけ見るのではなく、長く続けるために自分に合った職場を探してください。